

平成26年4月25日

井原市議会議長

宮地俊則 様

井原市議会議員

上野 安是

下記のとおり政務活動を実施しましたので、報告します。

記

1. 実施期間	平成26年4月10日(木)～4月11日(金) <2日間>
2. 研修会等の開催地 または視察、要請・ 陳情活動先	滋賀県大津市唐崎 (全国市町村国際文化研修所)
3. 研修会等の名称 または視察、要請・ 陳情活動内容	平成26年度 第1回市町村議会議員特別セミナー
4. 研修会等の講師名 または視察、要請・ 陳情活動先の担当者 名	別添のとおり
5. 活動内容	別添のとおり

1. 報告書は、政務活動終了後2週間以内に提出すること。

2. 活動内容欄のスペースが足りない場合は、任意の様式により活動内容を取りまとめ、活動内容欄へは、「別添のとおり」と記載すること。

講師紹介

◆山崎 亮(やまざき りょう)氏 株式会社studio-L代表取締役

studio-L代表。京都造形芸術大学教授。慶応義塾大学特別招聘教授。
1973年愛知県生まれ。大阪府立大学大学院および東京大学大学院修了。博士(工学)。建築・ランドスケープ設計事務所を経て、2005年にstudio-Lを設立。地域の課題を地域に住む人たちが解決するためのコミュニティデザインに携わる。まちづくりのワークショップ、住民参加型の総合計画づくり、市民参加型のパークマネジメントなどに関するプロジェクトが多い。「海士町総合振興計画」「マルヤガーデンズ」「studio-L伊賀事務所」でグッドデザイン賞、「親子健康手帳」でキッズデザイン賞などを受賞。

著書に「コミュニティデザイン(学芸出版社:不動産協会賞受賞)」「コミュニティデザインの時代(中公新書)」「ソーシャルデザイン・アトラス(鹿島出版会)」「まちの幸福論(NHK出版)」などがある。

現在、大学生が「ふるさとを元気にする仕事」について学ぶ、全国初の「コミュニティデザイン学科」設立に携わっている。コミュニティデザイン学科は、2014年4月から東北芸術工科大学でスタートし、被災地の復興や東北の集落を支援しながら実践的なコミュニティデザインの手法を学ぶ場になる予定。

◆司 太夫(つかさ たゆう)氏 京都・嶋原太夫

本名は中川幸永(なかがわ ゆきえ)。現在、日本に3人しかいない太夫のひとり。京都市山科区出身。

かつては祇園甲部で舞妓、「奈見子」(なみこ)という芸名で在籍していた。幼少の頃から日本舞踊、茶道、華道、箏等を習い、中学卒業後、祇園甲部の屋形(置屋)に入り修業の後16歳で舞妓になる。年季が明けた後、嶋原の屋形でお茶屋である「輪違屋」の当主に「太夫の一人が辞めてしまう、太夫になってくれないか？」と声をかけられ、23歳で太夫となり、「司太夫」と名乗る。

現在、本業の傍らテレビ、ラジオ、講演会などに出演。2001年には新聞「こったい」(嶋原では太夫のことをこう呼んでいる)を創刊し、当初は一部の読者に配られていたが口コミにより、全国に広まった。同年12月に嶋原の年中行事で12年間途絶えていた「餅つき」を再興させた。2009年10月、自身の店「こったいの店 司」を開く。

◆小田切 徳美(おだぎり とくみ)氏 明治大学農学部教授

1959年神奈川県生まれ。東京大学農学部卒業、同大学院博士課程修了(農学博士)。

高崎経済大学経済学部助教授、東京大学大学院助教授等を経て、2006年より、明治大学農学部教授。明治大学農山村政策研究所代表、日本学術会連携会員。専門分野は、農政学、農村ガバナンス論。

主な著書として、「農山村再生に挑む」(編著2013年:岩波書店)、「農山村再生の実践」(編著2011年:農山漁村文化協会)、「農山村再生<限界集落>問題を超えて」(2009年:岩波ブックレット)など多数あり。

◆山野 之義(やまの ゆきよし)氏 金沢市長

1962年石川県金沢市生まれ。慶応義塾大学文学部仏文科卒業。

ソフトバンク株式会社を経て、1995年4月、金沢市議会議員選挙に立候補、初当選。2010年12月、金沢市長に就任、現在1期目。

主な著書として、「このまちの手ごたえ」、「確信の手ごたえ」(ぎょうせい)、「私の尺度」(北国新聞社)、「一夜一冊」などがある。

地域再生への道～人と人がつながる・ふるさとこそが最前線～

講師：山崎 亮氏

(株式会社 studio-L 代表取締役)

◦ 泉佐野丘陵緑地 (大阪府)

- ・ これから公園をつくらせるコミュニティ募集
- ・ パーレンジャー養成講座

◦ 住民参加のまちづくりはどう議会、議員がかわれるか。

- ・ 個人的シンクタンクになるべき
- ・ 一人ひとりがデザイナーになる
- ・ 住民にいい情報を与える

◦ 立川こども未来センター (東京都) 2011～

◦ まんがパーク

- ・ まんがの聖地「立川」
- ・ 約5万冊のまんが蔵書
- ・ 企画展示やイベント開催

市民活動 × まんが

(普段の活動 × まんがの要素)

→ 市民活動に興味がなれた市民の参加、周知

・ 新たなプログラムづくり

美味しんぼ × 料理教室

キテレツ大百科 × 工作教室

○ × 将棋教室

など。

・コーディネーターによる活動のサポート

BBのプログラム

・団体による企画提案・相談受付

・事前シミュレーション

・アクティバーの養成

→ 協働事務室の利用者・団体を増やす工夫

。 しまのわユニバ (広島県)

・コミュニティラベル

・10市町 (廿日市市、広島市、東広島市、竹原市、江田島市、呉市、三原市、尾道市、福山市、大崎上島町)

・ま、かけとしてのせとらち参観

・地域イベント魅力向上支援

・わかりやすくする

・つながりをつくる

・か、こよくする

・居心地よくする

。 観音寺まちなみ再生計画 (香川県)

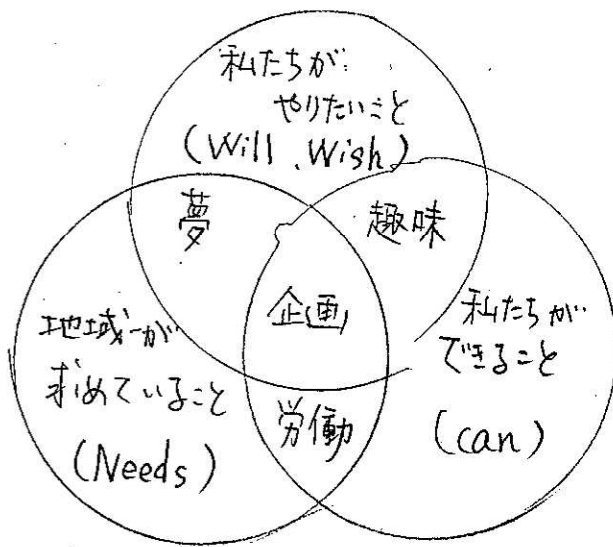
・店の中に店がある

→ 営業店舗での空間共有、空き家、空き店舗活用

・下着屋 + ケーキ家

・仏壇屋 + ヒリヤード

・クリーニング屋 + 餃子屋



住民がやりたいことを
行政としてやることに
どう組み合わせるかが課題

伝統行事で地域活性化をへ寂れた花街"嶋原"復活奮戦記

講師：司太夫氏（京都・嶋原太夫）

・ どう花街を伝えていくのか

- ・ 若い感性
- ・ 地域の協力
- ・ 行事の復活

よい心がよい文化を育てる

地域再生の課題 — 農山村を中心に —

講師：小田切 徳美（明治大学農学部教授）

I 農山村の実態

「3つの空洞化」の段階的進行

- ・人の空洞化 → 「過疎」
- ・土地(利用)の空洞化 → 「中山間地域」
- ・ムラの空洞化 → 「限界集落」

II. 地域再生(地域づくり)のフレームワーク

- ※ 「地域活性化」から「地域づくり」へ
- ※ 主体・場・持続条件の組み立て

① 主体形成(暮らしの力のつくり)

「地域づくりの最重要課題」= 地域の課題解決に対する
当事者意識

→ 自らの暮らしをめぐる独自の価値観
の再構築 = 「暮らしの力のつくり」

その契機として

1) 公民館運動

2) 地域づくり ワークショップ

② 場の形成(暮らしの仕組みづくり)

1) コミュニティの再生

2) 生活インフラの整備

③ 持続条件の形成(カネとその循環づくり)

1) 公共事業に依存しない地域産業の育成

2) 地域内再投資

※ 都市農村交流は地域再生のための戦略的活動

→ 農村サイト(ホスト)の再評価 (住んでおれ、訪ねておれ)

→ 高いリポーター率 = 成長産業の可能性

Ⅲ 地域づくりの実践(1) - 経済再生

○新しい地域産業構造の構築 - 2つのポイント

① 地域資源保全型経済

・「地域資源活用」から「地域資源保全」

・※地域資源保全 → 物語 → 共感、の循環を作る

② 小さな経済 - その経済規模 -

・年間36万~60万円の所得形成機会

⇒ 「小さな経済」の構築が必要

・「小さな経済」の累積のとの、若者定住を可能とする「中程度の産業」が成立する。

Ⅳ 地域づくりの実践(2) - コミュニティ再生

※手作り自治区 = 住民が当事者意識をもって、地域の仲間とともに手作りで自らの未来を切り開くという積極的な取り組み

① 総合性 (「小さな自治」「小さな役場」)

② 二面性 = 自治組織 + 経済組織

③ 補完性 (集落 ← 補完 → 手作り自治会)

⇒ 集落と手作り自治会の重層的組織化が課題

④ 革新性 = 「1戸1票制」の限界 → 「新たな仕組み」の構築

※段階的發展 (無理をしないコミュニティづくり)

Ⅴ 新たな動き - 「田園回帰」の胎動

○若者の「田園回帰」志向

○地域おこし協力隊

○地域サポート人の3つのタイプ

①仕事探し派 ②自分探し派 ③貢献の場探し派

○サポート人の役割 - 3つの活動

①生活支援活動

②コミュニティ支援活動

③価値創造活動

※地域おこし協力隊の「階段」機能

VI. 地域再生の展望

○「田園回帰」の広がり

・過疎の起点、中国山地で生じる人口社会増加

・山間部・離島部で見られる子どもの増加

○今、必要なこと

・加速化する下りのエスカレーターを上、ているのを

まずは、必要な「踊り場」づくりとして

→ 上りのエスカレーターへの乗り換え

金沢市政に かけよう 思い

講師：山野 之義 氏（金沢市長）

金沢市の人口・面積

人口 463,748人（426.3月現在 推計人口）

面積 467.77 km²

まちづくりの基本

まちの個性を大切にし、魅力を高める

まちの特性

- ・ 藩政期 (約280年間)
戦いを避け、学術・文化を尊重
- ・ 明治期以降 (約150年間)
戦禍にあわず 現在でも 藩政期のまちなみが残る

まちづくりの基本概念

○保存と開発の調和

- ・ 重要伝統的建造物群保存地区
・ 東山みがし地区 (国選定) など
- ・ 国史跡指定
・ 辰巳用水 (平成22年2月指定) など
- ・ 重要文化的景観選定 (平成22年2月)
〈文化財保護法による 文化的景観地の保全〉
 - ・ 黒瓦の屋根・雪吊り・友禅流し
 - ・ 長町武家屋敷・薦(いも)掛け
- ・ こまろなみ保存条例 (平成6年)
- ・ 用水保全条例 (平成8年)
- ・ 夜間景観形成条例 (平成17年)
- ・ ユネスコ創造都市 (フラット&フォア-ポート分野-平成21年6月選定)
 - ・ 自らの伝統文化に革新的な息吹を吹き込む取組みを展開し、国内外から日本の創造都市の代表として評価されている
 - ・ 2015年5月 ユネスコ創造都市ネットワーク会議開催

・ 伝統工芸

・ 金沢箔・金沢漆器・加賀友禅

・ 希少伝統工芸

・ 加賀毛針・加賀木引 など

・ 新しい文化芸術の創造

・ 金沢市民芸術村 (1996年開村)

・ 金沢 21 世紀美術館 (2004年開館)

官民一体とした取り組み

・ 金沢創造都市推進委員会

・ 金沢創造都市会議

人材育成の基盤

・ 金沢美術工芸大学 (1946年設立)

・ 金沢卯辰山工芸工房 (1989年設立)

・ 金沢職人大学校 (1996年設立)

・ 若手工芸家海外研修支援事業 (2010年～)

施設

・ 金沢駅・もてなしどー4

・ 金沢 21 世紀美術館

・ 鈴木大拙館

・ 金沢海みらい図書館

その他

- ・金沢の食文化及び振興に関する条例(平成25年9月制定)
- ・北陸新幹線開業に向けた取り組み
- ・観光による広域連携(エリアとして金沢をプレゼン)
 - ・北陸飛驒3つ星街道
 - ・兼六園・五箇山・白川郷・高山
- ・「奇跡の公共施設」連携
 - ・佐賀 武雄市図書館
 - ・金沢 21世紀美術館
 - ・北海道 旭山動物園
- ・国内の都市間交流
 - ・高松市(4.25.10.28~)など10都市
- ・姉妹都市
 - ・バップロー(アメリカ)など7都市

<理念>

責任と誇りを持つまち 金沢

<指針(都市像)>

世界の「交流拠点都市金沢」

地域の課題を地域に住む住民自らがどのように解決していくかを前向きに検討し、さまざまな取り組みを実践していく必要があり、今後もより効果的な「協働のまちづくり」が進めていけるようあらゆる角度から研究していかなくてはならない。

以上